憲法を起草する会《大阪》 第七回　議事録

おやじより

書籍の紹介

●国体の本義
戦前の文部省が国民に向けて発行した書籍

●日本人を狂わせた洗脳工作
アメリカの原文が載っているので、価値がある本

●閉ざされた言論空間
この本を読んで多くの日本人が「こんな事があったのか」と気づいたと思う

●戦後史の正体

森喜信さん発表《マネーの仕組みついて》

●森喜信さん
貿易商社で働いている。今年で20年。最初10年ぐらいは真面目に働いていた。

2001年に今の仕事を始め、メイドインジャパンを売って外貨を稼いでくるという事を志と思ってやっていた。

2008年はリーマンショックが有名だが、仕事の中で印象に残っている事がある。2007年から原油のものすごい値上がりがあった事。その時、実態経済の中で、異常な状況があった。

WTIという指標があり、原油の先物価格。その時、1バレル（約160L）147ドルで、史上最高値。原油の先物価格は、それまでは、20ドル～30ドルあたりで取引されていた。採掘原価は、5ドルや10ドル。

20ドルから30ドルで動いていたものが、147ドルになってものすごい上がった。直接的な関係ではないが、農産物の価格もその時上がった。

中国の経済が伸びて、北京オリンピック前にいろんな原料が足りなくなるだろうという事で、先物価格が異常な価格になったと言われている。

景気が伸び切って、その後にリーマンショックが起こった。その後、円高が始まり、1ドル120円だったものが、80円台になった。

円高になると、自動的に売値が上がるので、日本の物が売れなくなる。円安になれば、売価が自動的に下がるので、韓国、中国のメーカーと競争しても勝てる。

2011年の東日本大震災の後、史上最高値で1ドル175円。会社も、取引している会社さんも経済的に壊滅状態になった。物を作って外貨を稼ぐという事業が壊滅状態になった。

大地震があって、国内が混乱状態になっている時、実は金融筋から狙われて、民主党政権が対応しなかったので、ものすごく円高になった。その後、自民党安倍政権になって、円安になり、輸出が復活した。

個人の営業努力に関わらず、大きな波の前では逆らえない。その時、仕事としておかしいなと思い、世界観が変わって来た。

2012年以降、円安が続いているが、ただ、国家税収は過去最高を超えたと見た。法人税率は下げていたはず。

TOYOTAは、今年の2月から6月で最高利益を出している。一個人と、法人ベースでの感覚が乖離しているのではないかと感じる。何かがおかしいという感じがする。

儲けている人達を見ていると、儲けても儲けても、「もっともっと儲け続けたい」という心理を感じる。儲かったお金があって、満足するという事ではなく、すぐ次に稼ぎにいくような感覚がある。

お腹を満たす為に食べるのではなく、食べ続ける事が目的になっているように思う。そういう背景もあり、憲法には、以下の文面を入れればよいのではないかと思う。

※詳しくは下記資料参照。

▼資料

- 森喜信さん①.pdf
- 森喜信さん②.pdf

第５回憲法を起草する会　宿題

森　喜信

職域の問題は、とにかく利益至上主義で、コロナ禍でも結局お金しか頼るものがないので、どこまでやっても安心立命には至れません。　よって憲法には自己の存在と権利・財産を最大化しようとする気持ちに内側から歯止めをかける言葉があったほうがいいと思います。　取り急ぎ、以下の３つをお送りします。

1、「それは、満腹でもなお貪欲に食らい続けるような国家ではなく、肌の色や宗教と言わず、人と言わず、命あるものと言わず、森羅万象全てのものとの共存を目指し、自然の摂理を重んじる国家であって欲しい。」

出典：P246-247 「国のために死ねるか 自衛隊「特殊部隊」創設者の思想と行動 」　(文春新書) ２０１６年　伊藤 祐靖 (著)

2、「夫レ　家ヲ愛スル心ト　国ヲ愛スル心トハ　我国ニ於テ　特ニ熱烈ナルヲ見ル。　今ヤ実ニ此ノ心ヲ拡充シ、人類愛ノ完成ニ向ヒ、献身的努力ヲ　效スベキノ　秋ナリ。」

出典: 「新日本建設に関する詔勅」1946 年

3、「此の三種につきたる神勅は正しく国をたもちますべき道なるべし。
鏡は一物をたくはへず。私の心なくして、万象を照らすに是非善悪の姿現れずということなし。
その姿にしたがひて感応をするを徳とす。これ正直の本源なり。玉は柔和善順を徳とす。　慈悲の本原なり。　剣は剛利決断を徳とす。　知恵の本原也」

「中にも鏡を本とし、宗廟の正体と仰がれたまふ。
鏡は明を形とせり。　心性あきらかなれば、慈悲決断はその中にあり。」

出典: P38. 「神皇正統記」北畠親房　(岩波文庫) 1975 年　岩佐 正 (校注)

「それは、満腹でもなお貪欲に食らい続けるような国家ではなく、
肌の色や宗教と言わず、人と言わず、命あるものと言わず、
森羅万象全てのものとの共存を目指し、自然の摂理を重んじる国家であって欲しい。」

P246-247 「国のために死ねるか 自衛隊「特殊部隊」創設者の思想と行動 」伊藤 祐靖 （著） （文春新書）2016年

「大日本者神国也 （おおやまとはカミの国なり）」

P.15「神皇正統記」北畠親房 （岩波文庫）1975 年 岩佐 正（校注）

「皇国のカミは <略> 人のみにあらず、<略> すべて神霊あるもの、可畏物(かしこきもの)を、皆その現身(うつしみ)をカミと言う。また生類のみにもあらず、山川海の類にいて、神霊ある、また可畏(おそるべき)をば直(じか)に其物を指してカミと言う。」

P105「うひ山ふみ/鈴屋答問録」本居 宣長 （岩波文庫） 1991 年 村岡 典嗣（編さん）

「カミとは<略> 人はさらにも云はず、鳥獣木草のたぐひ海山など、其の外何にまれ、尋常ならずすぐれたることありて、可畏物（かしこきもの）を（かみ）とは云なり。」

P. 07 「古事記傳 三」本居 宣長（国立図書館コレクション） Kindle 版 位置 No. 17/110

「わが国土は、語事によればイザナギ・イザナミの生み給うたものであって、我らと同胞の関係にある。われらが国土・草木を愛するのはかかる同胞的親和の念からである。」

P85-87「国体の本義」文部省 1937 年 （P.184.「日本国家の真髄 禁書『国体の本義』を読み解く」佐藤優 （著）より）

「日本に於いては、国土と民族とは共に神の生み給う所であり、共に神の子であり同胞である。（略）日本民族は、日本の国土そのものを産土の神と称へ、国魂の神と称えて、祭ってきたのである。」
「日本人の文化の根底をなすものは、日本人の神に対する態度、惟神道である。（略）
清浄な瀧、澄んだ海、青々とした緑の山、神々の籠りたまふこの大八州からこそ
惟神道は生まれければならなかったのである。 国土と民族と分離して思考する事は、
少なくとも日本民族の考え方ではない。」

P5・6 「「日本人の言葉 ： ナチスの蒙を啓く」 葦津珍彦 著（兄弟会, 1940）
国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1271056

「花より明くる み吉野の 春のあけぼの見渡せば
もろこし(唐）人も こま(高麗)人も 大和心になりぬべし」

頼山陽

「日本では、遠く悠久の古代から祓いが行われ、祭りが行われて、民族の中にこの「神聖を求める心」が保たれてきた。(略)天皇のお勤めの第一は、祭り主をなさると言うことなのである。
この祭りによって、天下の人身の神聖を求める心を保たれることである。」

P113「近代民主主義の終焉 <日本思想の復活>」（葦津事務所）2005 年　葦津珍彦（著）

「此の三種につきたる神勅は正しく国をたもちますべき道なるべし。
鏡は一物をたくはへず。私の心なくして、万象を照らすに是非善悪の姿現れずということなし。
その姿にしたがひて感応をするを徳とす。これ正直の本源なり。
玉は柔和善順を徳とす。 慈悲の本原なり。 剣は剛利決断を徳とす。 知恵の本原也」
「中にも鏡を本とし、宗廟の正体と仰がれたまふ。 鏡は明を形とせり。
心性あきらかなれば、慈悲決断はその中にあり。」※8

P37-38.「神皇正統記」北畠親房（岩波文庫）1975 年　岩佐 正（校注）

参考文献

「日本人のための憲法原論」小室 直樹（著） 2006 年 集英社インターナショナル
* 近代西ヨーロッパにおける憲法発祥の歴史的経緯とその意味。
根底にキリスト教があり、憲法を作るには機軸となる「宗教」が必要であった。

「国家神道とは何だったのか」 葦津 珍彦（著） 神社新報社 2006年
＊ 明治期～戦前の官僚による非宗教化された「国家神道」に対する、神道人達からの批判

「日本人と神」 佐藤 弘夫（著）（講談社現代新書） 2021年
＊ 古代から現代まで日本人が何に『神』を感じてきたのか、その心の歴史。 社会構造の変動に伴って人々が共有する世界観は変容してきた。 日本の神を世界とつなげるための研究。

「神国日本」 佐藤 弘夫（著）（ちくま新書）2006年
＊ 古代から近世に至る日本の「神国思想」が如何に誕生し、変遷してきたか、その内容分析。
中世においては時代や国境を越えた「普遍的な共通の真理」が実在すると言う認識があり、それを志向する気持ちがあった。

「日本国憲法を考える」 西 修（著）（文春新書）1999年
＊ 他国の憲法における環境権の導入事例、 日本の「自然との共生の思想」への言及。

「宇宙の大道を歩む—川面凡児とその時代」 宮崎 貞行（著） 2011年 東京図書出版
＊ 神道の普遍性について。

「川面凡児歌集」 1969年 稜威会

新年ニ當リ誓ヲ新ニシテ國運ヲ開カント欲ス
國民ハ朕ト心ヲ一ニシテ此ノ大業ヲ成就センコトヲ庶幾フ
1946 年 昭和二十一年一月一日詔書

茲ニ新年ヲ迎フ。顧ミレバ明治天皇明治ノ初國是トシテ五箇條ノ御誓文ヲ下シ給ヘリ。曰ク、

一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス
一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

叡旨公明正大、又何ヲカ加ヘン。朕ハ茲ニ誓ヲ新ニシテ國運ヲ開カント欲ス。須ラク此ノ御趣旨ニ則リ、舊來ノ陋習ヲ去リ、民意ヲ暢達シ、官民擧ゲテ平和主義ニ徹シ、教養豐カニ文化ヲ築キ、以テ民生ノ向上ヲ圖リ、新日本ヲ建設スベシ。

大小都市ノ蒙リタル戰禍、罹災者ノ艱苦、產業ノ停頓、食糧ノ不足、失業者增加ノ趨勢等ハ眞ニ心ヲ痛マシムルモノアリ。然リト雖モ、我國民ガ現在ノ試煉ニ直面シ、且徹頭徹尾文明ヲ平和ニ求ムルノ決意固ク、克ク其ノ結束ヲ全ウセバ、獨リ我國ノミナラズ全人類ノ爲ニ、輝カシキ前途ノ展開セラルルコトヲ疑ハズ。

夫レ家ヲ愛スル心ト國ヲ愛スル心トハ我國ニ於テ特ニ熱烈ナルヲ見ル。今ヤ實ニ此ノ心ヲ擴充シ、人類愛ノ完成ニ向ヒ、獻身的努カヲ效スベキノ秋ナリ。

惟フニ長キニ亘レル戰爭ノ敗北ニ終リタル結果、我國民ハ動モスレバ焦躁ニ流レ、失意ノ淵ニ沈淪セントスルノ傾キアリ。詭激ノ風漸ク長ジテ道義ノ念頗ル衰ヘ、爲ニ思想混亂ノ兆アルハ洵ニ深憂ニ堪ヘズ。

然レドモ朕ハ爾等國民ト共ニ在リ、常ニ利害ヲ同ジウシ休戚ヲ分タント欲ス。朕ト爾等國民トノ間ノ紐帶ハ、終始相互ノ信賴ト敬愛トニ依リテ結バレ、單ナル神話ト傳說トニ依リテ生ゼルモノニ非ズ。天皇ヲ以テ現御神トシ、且日本國民ヲ以テ他ノ民族ニ優越セル民族ニシテ、延テ世界ヲ支配スベキ運命ヲ有ストノ架空ナル觀念ニ基クモノニモ非ズ。 朕ノ政府ハ國民ノ試煉ト苦難トヲ緩和センガ爲、アラユル施策ト經營トニ萬全ノ方途ヲ講ズベシ。同時ニ朕ハ我國民ガ時艱ニ蹶起シ、當面ノ困苦克服ノ爲ニ、又產業及文運振興ノ爲ニ勇往センコトヲ希念ス。我國民ガ其ノ公民生活ニ於テ團結シ、相倚リ相扶ケ、寬容相許スノ氣風ヲ作興スルニ於テハ、能ク我至高ノ傳統ニ恥ヂザル眞價ヲ發揮スルニ至ラン。斯ノ如キハ實ニ我國民ガ人類ノ福祉ト向上トノ爲、絕大ナル貢獻ヲ爲ス所以ナルヲ疑ハザルナリ。

一年ノ計ハ年頭ニ在リ、朕ハ朕ノ信賴スル國民ガ朕ト其ノ心ヲ一ニシテ、自ラ奮ヒ自ラ勵マシ、以テ此ノ大業ヲ成就センコトヲ庶幾フ。

御　　名　　御　　璽

昭和二十一年一月一日

●参画者
強欲の行き着くところが、人々の暮らしをまずくしているという問題提起でしょうか？

●森喜信さん
強欲というよりは、実態の無いマネーが問題だと思う。マネーゲームをしている人達が、食べ物やエネルギーにまで影響を広げてしまっている。

海外の投資家に振り回されているという体制が問題だと思う。

●参画者
森さんの問題意識と、自分の問題意識で共通している点がある。

現在、自分の宿題を調べているが、テーマはオフィスビル乱立問題。色々と調べると、2022年から2024年の間に、東京都に、計92棟、延べ376万坪のオフィスビルができる予定。100～200万席分のオフィスができる計算。

業界的にそれが当たり前で、コロナで落ち着くかと思ったが、全く落ち着く気配が無い。

何故、オフィスビルが要るのかというと、今の企業は無限の成長を目指さなければいけなく、維持や改善ではなくて、去年よりいい結果を出さないといけないという、無限成長のシステムの中で生きているから。

産業廃棄物は、建設業が20%が締めており、この問題は都市部の亜熱帯化や、ごみ問題にも派生する。また、外資が入って来て、日本の土地を買い占め、日本の土地がどんどんなくなっている実情もある。

無限成長のような実態の伴わない欲から立ち返らなければならない。自然の摂理を重んじたり、森羅万象の物と共存していく考え方を日本人が持てば、建物を建てる時、「果たしてこれで良いのか？」と考えられると思う。

新潟では、長屋など、文化に根ざして建物の高さが決められている。お祭りで神輿が通る時、神輿の位置より高くないように、それより高い建物は建ててはいけないと決められている。共同体の慣習として、神様より高い建物を建てないという文化。

謙虚さや、自然の中で生きるという考え方が必要だと思う。

もう一つ、鏡の話で、イギリスの人は、正直者を馬鹿にするが、日本人としては正直さを大切にしていきたい。鏡は正直の根源だというストーリーも、いろんな人に話をしていければと思う。

●森喜信さん
仕事で中国に行った事があり、中国にはゴーストタウンがいっぱいある。建物は建てるが入居されていない。建物を立てて資産価値を上げれば、経済成長できるという事。

日本のバブルや、ベイエリアの開発も一緒。

いらないお金をどんどん市場に出すので、必要無い事に投資して、国を壊していっていると思う。欲望に歯止めをかけられる事が憲法に記載されていたら良いのではと思う。

●参画者
日本では、住宅もたくさん建っている。大阪市内でも高層マンションばかり。結局、空き家が多い。

また、ショッピングモールが出来て、売り場面積も増えており、それに伴う食料廃棄問題もある。

マネーという仕組みがある以上、そうせざるを得ない。お金を稼ぐ事が善と思っている人が多い。自分の業種でも、一部矛盾を感じる事はある。考え直さなければならないと思う。

●参画者
問題の根源はマネーの発行システムではないかと思う。借金によって増える実態の無い数字を、銀行が増やして、実態の無いお金がどんどん増えていく。

貪欲に進むのは、一方の見方からすると良いものなのかもしれないが、それをすると意味を為さない無駄な物ばかりが増えていく。

マネーの仕組みから離れて生きていく事が、むすびの里が目指す世界だと感じている。しかし、マネーの仕組みを変えるのはとても難しい。

自分を顧みられる一文が憲法に記載されるのは賛成。

●参画者
先日、主催している勉強会で通貨の発行システムを取り上げた。通貨の発行システムはユダヤ人が作ったシステム。

発行システムのルーツに関しては、知っている人はかなり詳しいが、知る人ぞ知る話。大西つねきさんという政治家がその話をして、れいわ新選組を追い出された。

また、元同志社大学教授の山口薫先生も、経済学部の教授として、珍しい貨幣論を出そうとしていたら同志社大学をクビになった。この先生は、「公共貨幣」という本を出して、システムを変えようと頑張られている。

貨幣の仕組みを変えようとすると非常に大変。仮に変えられたとしても、貨幣の仕組みを逃れたら、それはそれで国防に影響があるのではないかと思う。

貨幣という仕組みがあるからこそ、人間が頑張って働くとも思う。ウイルスがいるからこそ、免疫がつく。寄生虫がいるからこそ、寄生虫に負けまいと宿主が頑張るように。

お金の仕組みを全て変えると、とても大変なので、お金の仕組みがインチキだとわかった上で頑張るしかないのではないか。

●参画者
頑張って発展した事が本当に発展した事なのかというのが疑問。マネーの仕組み自体がなかったら良いのではとも思う。

ロシアは何故GDPが低いのにしっかりしているのだろうか。物価も低い。日常で使うマネーが少ないからか。

ロシアは、今のグローバル資本主義に入っていない感じがする。お金が国の中だけで流通しているからこそやっていけるのかもしれない。

ロシアのように、国防をしっかりできるのであれば、マネーに関わらない方が幸せなのではないかと思う。それを踏まえての文言ができたら良いと思う。わ

●参画者
「日本は日本だ」と言えるというルールづくりができたらいいなと思う。

●森喜信さん
自分は、海外との取引で外貨を稼いでいる仕事をしているが、最近は、距離を持たないといけないなと感じている。

中国が今お金を持っているので、お金を持っている中国人が日本に来ると、何でも買い放題。

また、お金を持っている人が強いシステムだと、お金を持っている人が優先的になんでも買えてしまうので、食料などの値段が上がった時、日本には食糧難が来るのではないかと感じている。実際に、現在原油の価格は上がっている。供給量が上がればインフレ傾向が強くなる。

中国も行く度に物の価格が上がっている。物の値段が上がるのが世界では普通。海外では、牛丼を500円では食べられない。

輸入する物がバカ高くなるのではないかと懸念している。

●参画者
自分は、大阪市内に住んでいる。前は郊外に住んでいた。市内では、タワーマンションばかり建っている。その反面ホームレスの方も多い。

広辞苑を読んでいた時、文化と文明は違うという事が記載されていた。文明というのは技術的な発展。文化というのは精神的な生活を支えるものを指すと記載されていた。

文明開化という言葉が教科書でよく出て来るが、文明（技術）は入れるけど、文化は入れないという感じだったのではと思う。文明と文化の捉え方としてごっちゃになって、文化も入ってきたような捉え方になっているのではと感じる。

また、都会を見た時、シンガポールも、香港も、日本のウォータフロントも、写真で見ると、全て一緒に見えてしまう。

経済に関しても、文明的で、物質的・技術的な側面が強いと思う。そこには精神的な要素がない。そういう精神的な要素を取り入れるのが必要だと感じる。

●おやじ
制度の問題を考えると太刀打ちできないので諦め感になってしまう。制度の問題は考えないようにしたらいいと思う。

現在、道場の増築をしているが、市場は、ウッドショックで資材が3倍になっている。市場のルールに乗っかっていると家は建たない。しかし、熊野ではバンバン家を建てる事ができる。100件建てようと思ったら、100件分の木材を切ればいいだけ。そういう生活をすれば良いと思う。市場の影響を受けない生活を如何にするかという事を考えれば良いだけ。

地方コミュニティーの中では、そういう活動をしていく事が可能。そういう生活が良い皆が気づき、それが国家の制度になる時には、どこかから反発が必ず出る。じゃあその時はどうするのか？戦うしかない。当たり前の事。戦う事を前提に話を進めないといけない。

洗脳のプロセスの逆も一緒で、一定の国民の人にそれが正しいという思考回路が出来ないと何も動かない。なので最初は少数から始まる。

少数の中で、セーフティエリアを厳重に作っていく。これからガソリン・食料は高くなるので、お金の無い人は買えない。市場に頼っていたら、そういう人は死ぬしかなくなる。そうなると、生産基盤を自分で作って、自分で食べ物を作るしかなくなる。そのタイミングを待てば良い。

ニューヨークのスラムでも、貧しい人間はスラムの中でしか生きていけない。でも、スラムの中では生きていける。スラムみたいな違法地帯のようなセーフティーエリアではなく、共存共栄の秩序のあるセーフティーエリアを作っておく事が最初のステップだと思う。

そうすると、生きる事がしにくくなった人が集まって、似たような事をすれば生きていけるという事を実感していく。マネーと関係ない価値観こそ楽しい生活があるという思考回路が確立されていくと、徐々に世界は変わっていく。自立社会を目指していくという事になっていく。

今の時点で、仕組みと立ち向かうという事をいくら話しても無理。多くの人の思考回路がそうなってないので仕方がない。そこでは戦えない。下地づくりが大切。マネーから出た世界で十分生きていけるという事を認識しなくてはならない。

ローマは、ローマ自身で崩れた。お金には実態的に価値が無いのに、無理やり価値を付けている。ドルに関しても、なんの担保も、なんの価値もない。使っている人もそれを知りながら使っている。ゲームのコインみたいな感じ。

多分、どこかで一気に価値が無くなると思う。例えば、日本が破綻するとなったときに、アメリカの国債等が入って来なくて、日本が破綻すればそれで経済システムは終わる。それで世界経済は崩壊する。一気に世界の仕組みが切り替わる。お金のシステムはパワーはあるが、基弱なシステム。現在、ビットコインなどに乗り換えようとしているが、彼らなりの安全対策なのだと思う。

お金を一杯抱えているところを、一瞬でも良いから実力を持って機能不全にしていく。実力で経済システムを作ってきているので、実力で潰せる。そういう自信はある。しかし、それをしなくても大丈夫という感じがしてきたので、今のむすびの里の活動をし始めた。

今の仕組みを考えたり悲観したりするより、次の良い社会の仕組みを作っておいた方がよいというのが自分の考え。万物万象と一体になるという事を常日頃から唱えつつ、市場の影響を抑える形の実際経済の仕組みを作っていく。

そういう生活が良いと認識され、それを何と言うのか？と問われた時「八紘為宇」と言えるなど、一言で言い表せる状態であれば良いと思う。

紀ノ崎剛さん発表《コミュニケーションについて》

●紀ノ崎剛さん
二十代の頃、水戸黄門と年末の忠臣蔵が放映されなくなると、日本人の情緒は終わりだと気づいた。でも、そんな日は来ないだろうと思っていた。

しかし、7～8年前ぐらいに、水戸黄門が終わるとなり、気がつけば忠臣蔵も年末に一切やっていない。7～8年前ぐらい前から情緒が変わって来たと感じている。

今の会社の人材派遣の部門を吸収したのが7～8年前で、その部門で働いていた派遣スタッフを、全員正社員にしてやろうというのが所信表明。しかし、正社員になりたいと手が挙がったのは数名のみだった。派遣の子の人生観というのは、派遣の子での人生観があると気づいた。

また、ある時、派遣スタッフが辞めたいと言って来て、何故辞めたいのかと問うた時、「夜釣りが出来ないから辞めたい」という事だった。昼勤と夜勤があり、昼勤の仕事をしていたが、夜勤の仕事が入るようになって来たから辞めたいという事だった。

趣味を中心に置いて仕事を選ぶのが面白いと思って、昼勤にするので辞めるなと言って、彼はまだ働いている。

また、柳生流の道場の門人は、土曜日の稽古を優先するので、土曜日の仕事を入れない。絶対土曜日が休みの仕事しかしない。それで職を転々としている。

そのような事もあり、職域の問題としては、コミュニケーションがよくわからないという事。会社の飲み会も嫌がる。特に自分が居る飲み会は嫌がられる。忘年会、新年会、社員旅行も嫌がる。

妻からは、「時代は変わった。親分肌のリーダーシップは時代遅れ。自分がしたいと思う事の逆を言って下さい。」と言われている。

大阪では、ほとんど人と喋っていない。コロナでのコミュニケーションの断絶もあり、コミュニケーションを取らない事を決めた。そうやって社員を放ったらかしにしていたが、放ったらかしにした方が、会社の売上は伸びていた。

発表に関しては、資料参照。

▼資料
紀ノ崎剛さん.pdf

むすびの里「憲法を起草する会」大阪

9月例会　宿題

テーマ　「自分の直接かかわる職域の問題とその解決のため、そして国民全員が健やかに発展していけるような、憲法に謳うべき文言」

紀ノ崎剛

日本人は、様々な組織において家族を擬制する特性がある。戦後の一般企業も会社自体（家）が個人の帰属する共同体（終身雇用）であって、団塊の世代は、会社という一家共同体に滅私奉社して高度経済成長を支えた。私は、ある時期までは、如何なる組織も、一家共同体組織が一番強いと思っていた。しかし、今の社員（自身の半径100m四方）は、一家共同体体制を好まず、家族を擬制することを望まない。例えば、研修を兼ねた社員旅行、忘年会や新年会、歓送迎会やミーティングの後の飲み会等に参加することを心底では拒否しているものである。（私の若い時には、進んで先輩や長老の自慢話や昔話に耳を傾けたものであるが。）

私は、神道的に、日常（ケ）の疲弊した心（気が枯れる、ケガレ。）や仕事の制度疲労（禍霊マガツヒの作用）を、特別な日（ハレ）に、苦楽を共にしたみんなで飲食（直会ナオラヒ・直毘ナオヒの作用）することによって、共同体としてのエナジーを充電できると考えていた。しかし、80年代のバブル経済とその崩壊が、すべての価値観（一家共同体体制から来る倫理）を貨幣価値の交換（お金）に変えた。その結果、日本社会も、仕事は労働となり経営は株主の為の搾取となる。経営者がいくら中国等の古典籍をして人間学に基づいた啓発を促しても、その関係性は、今や貨幣交換の構造でしかない。

私の職域を通じての問題提起は、トップの不徳や世代間ギャップでは片づけられない日本人としての情緒の変容による人間関係の構造変化がある。グローバルな個人主義の浸透によるコミュニケーションの断絶である。反面、ワンピースや鬼滅の刃などに共鳴する若者がいることも事実ではあるが。

さて、この問題をどう解決するか。古典籍探求の旅に出ても貨幣が交換価値の中心（農が本、商は末）に居座る限り「論語とソロバン」は両立しないし晴天は衝けない。

自身の仕事半径１００m以内の問題解決で、国民全体が健やかに発展していけるような憲法に謳うべき文言、たいへん難しい課題である。本来ならマクロ的に「神勅」や「式祝詞」と行きたいところではあるが、直接かかわる職域の問題となると、ミクロ的な場所に立脚して考えねばならない。ここはひとつ報本反始して、私はそれを長年修行してきた尾張柳生「柳生新陰流兵法剣術」に見出したい。柳生の新陰流は、御存じのとおり徳川家の御家流であり大名旗本しか学ぶことができない流儀である。つまり、治める側の論理であると共に修める者の倫理でもある。しかし、あくまでも、技と形を通じて彼我同一の境地を目指し、剣術から兵法に至ることを目指す。

尾張柳生開祖、柳生如雲斎利厳は、その口伝書「始終不捨書」の序において「庶人之を学べば則ち身を治め、君子之を学べば則ち国を治め、天子之を学べば天下を治む。庶人より王侯天子其の道一也。」と言っている。「之を学べば」の「之」は、柳生新陰流兵法のことである。口伝の代表的なところを紹介すると「風水音を知る事」「懸待表裏一隅を守らず」

「殺人刀活人剣」「風帆の教え」「務知英雄心是極一刀習」などがある。これら柳生新陰流の口伝を憲法に謳うとなれば、文語訳、理念として（本来は闘争技術の理合なので、健やかな発展とは程遠いが。）注釈しなければならないが、宿題テーマなので、あえて注釈すると下記のようになる。

「風水音を知る事」

本来は、戦闘の場所において、風や水の音が聞こえるぐらいに冷静に、との教え。これを謳うと「統治者（経営者）は、自身と国民（社員）の置かれている状況を、いつでも常に客観的に冷静に把握せよ。」

「懸待表裏一隅を守らず」

本来は、懸待（攻撃と守備）と表裏（見えている所と見えない所）つまり全体を俯瞰して一隅（一か所）を守らず（固執しない。）と教え。これを謳うと「統治者（経営者）は、国民（社員）全体（見える所、見えない場所）を俯瞰して物心共に偏りのないように心がけよ。」

「殺人刀・活人剣」

本来は、敵手が弱いと判断すれば、圧倒して倒せ（殺人刀）。敵手が強いと判断すれば、敵手の技（ハタラキ）を十分に出させて、その上に勝てとの教え。これを謳うと「相手（国民・社員）が弱いと、圧倒的なリーダーシップを以って導け。相手の才能やポテンシャルが高いと判断すれば、十分にそれを引き出してやることに努めよ」

「風帆・鷹兎の教え」

本来は、今までとは逆に流儀の概念や思想（口伝書など）に影響されることなく、現実の目の前のことを判断して現実的な策を打ち出せと。風を読んで帆を張り、兎を見て鷹を放て、いう教え。

これを謳うと、「過去の事例や慣習、成功例に囚われることなく、その時の現実状況に現実に対処せよ。」

「務知英雄心是極一刀習」

本来は、務めて英雄の心を知ること、ということで、「英雄」は、自分以外の上司や部下のこと。その心を知ることに努めよ、との教え。口伝書注釈は、13 代室町将軍足利義輝の自刃の例をあげ、将軍義輝は文武に秀で、鹿島新当流塚原卜伝ひとつの太刀の奥義を極めながら、まわりの英雄たちの心を知ることに努めなかった。その結果、裏切りをゆるし自刃したと注釈している。また、論語には「君は臣を使うに礼を以てす。臣は君に事うるに忠を以てす。」とあり、君（統治者・経営者）は、臣（国民・社員）に対して礼議を以って使うことが肝要で、そうすれば、臣は、君に忠（真心）を以って仕える。としている。

これを謳うと、「統治者（経営者）は、努めて国民（社員）の心を知り、下位の者に対して礼儀を以って接することが大切である。」

●参画者
最後の5つが、世代間のコミュニケーションを良好にするための教えという事でしょうか？

自分は、新卒の頃、国内の企業に勤めていた。部長に飲みに誘われると「お前いつ痩せるの？」と言われたりする。場を盛り上げるためのコミュニケーションだったのだろうけれども、男性の新卒社員に熱々のおでんを食べさせたりもしていた。いわゆるパワハラ。悪い人ではないけど、めんどくさい。

礼儀というのは上下共にあるのだろうなと感じる。

今の仕事では、2000年代生まれの人達が会社に入って来ていて、未知の生き物感がある。若い世代は敬語を使わない。自分の事は年上として認識はされているので、半分ぐらいは敬語を使ってくれるが、もう半分は敬語を使わない。

「うぃっす」とか、「りょーかい」という返事。ラインだったら了解の事を「りょ」、「り」と略して送って来たりする。ただ、一人ひとりと対話をすると悪い子ではないと感じる。

最近嬉しかったのは、防衛の学校に行く機会があり、若い子としゃべっていたら、「太平洋戦争ではなく、大東亜戦争と呼びたい」という19歳の子が居た。その子は、防衛の会社に行きたいと言っていた。日本を護らないといけないという意識の子も居る。

●紀ノ崎剛さん
趣味を優先して仕事を選ぶのは、脱成長型だと思う。

「自分の趣味ができる範囲で、これだけ稼げればよい」というのは市場から逸脱して良い考えだと感じるが、向上心が無いような気がしてしっくり来ない。釣りにしても、釣りの道具で良い物が欲しいと思わないのか？と思う。

●参画者
子供の事に関しても、ちょっと文句を言うと親が出て来る。そういう親と一緒にされたくないので、自分の子供の運動会も行かない。

年上を敬うという事がなくなって来ているような気がしている。昔は、「先生が言うから」というのがあった。先生が敬われており、そこに親も協力していた。

日本が大事にして来た事だとも思うので、そこも大事にしなければならないのではないかと思う。

●おやじ
そういう人とコミュニケーションを取るためにどうすれば良いと思われますでしょうか？

●参画者
自分の会社では、苦楽を共にするという事で、富士山に一緒に登る。強制だが、採用の時にこういう事があると事前に伝えて採用しているので問題無し。登ったあとは、やはり良い関係になれる。

●参画者
場の雰囲気というのはとても大切だと感じる。コンビニだと、コンビニの接客になるが、ディズニーランドだと、同じ人でも接客の雰囲気が変わってくると思う。

自社でも引きこもりだったスタッフが元気な接客をしたりしているので、場作りというのは大切だと感じる。

●紀ノ崎剛さん
自分のところでは、窃盗犯とレイプ犯以外の保護観察期間中の人を受け入れている。多くは薬関係で罪に問われている人。そういう人はうちの職場に合う。

彼らはすぐに辞めるが、トラブルが発生した時、その子達の方が動きが早い。

●参画者
自分は車屋の整備をしている。スタッフには、いろんな経験をしてもらい、成長してもらいたいと思っている。

前は怒る事もあったが、あまり怒るのも良くないと気づいて、最近は成長を見守るという事をしているが、そうやっていると良いコミュニケーションが出来てきた。もちろん、人によってはきつく言わないといけない人も居るが。

ただ、自分の事が一番見えていないので、自分がどうかというのを一番気をつけなければならないと思っている。

●紀ノ崎剛さん
我々の若いときの方がコミュニケーション力は発達していたのではないかと思っている。自分達の時は、先輩に対して懐に入った瞬間というのがあったが、今の若い子は、そういう感覚がない。そういうズレも感じている。

なので、コミュニケーションに関しては極力取らないようにしている（笑）。

●参画者

ある獣医さんが中学生の体験を受け入れており、「どんな大人が好きか、嫌いか」を毎回聞いていると聞いた。

そこでの答えは、

- どんな大人が嫌いか　⇒　人によって態度を変える人
- どんな大人が好きか　⇒　一所懸命な人

一所懸命に頑張る事が好きというのは、若い子も持っていると思う。一所懸命に接してくれるというのも感じるし、コミュニケーションのやり方によって変わったりするのではないか。

コミュニケーションを取るのが「めんどくさい」という感情も必ず伝わる。

●参画者
目指す方向性が一致して、ひとつの目標に向けて、同じ方向に進んでいくと変わって行くのでは無いかと感じる。

●紀ノ崎剛さん
会社の現場は、生き物のように流動的に動いている。

今までの経験で、一つ気づいた事がある。自分から出たアイデアというのはことごとく失敗している。ただ、人からやってくれと言われたものだけが形になって残っている。派遣の話も、同級生の弟から頼まれて引き継いだ。なので、自分から積極的に動くのをやめようと決めた。

去年の春先に、はじめてむすびの里に行った、その時、会社を引退して、滋賀で道場をしようと考えていた。しかし、その後で、コロナ禍になったので、少しずれていたら熊野に移住していたかもしれない。今、会社を続けているのもめぐり合わせかもしれないと感じる。

むすびの里では、「農」、「武」、「学」が必要という事を言われているが、自分には、「武」と「学」はあるが、「農」だけがない。これからやっていきたいと思って、現在進めている。

座間延明さん発表《自治会について》

●座間延明さん

発表は下記資料参照。

▼資料
座間延明さん.pdf

「憲法を起草する会」

「私が関わる職域の問題とその解決のための憲法に謳うべき文言」

座間　延明

問題点
現在私は住んでいる自治会の会計をしています。
昨年度、町内会費の銀行引き落とし手数料の値上げを銀行より伝えられました。その件を今自治会役員で話し合っているのですが、自治会員の皆さんの意見全部をまとめる事が出来ずにいます。
それと自治会を抜けていく人が次々と出てきています！話し合いで決めていきたいのですがコロナを理由に集会する事にも反対されます。
今の流れで行くと何通りかの案の中から多数決で決まってしまいそうで、不平不満が出て自治会脱退する人達が増えてきそうな気がします。
何とか多くの方が納得できる話し合いで決めたいと思います！

私が憲法の文言にしたい言葉は五箇条の御誓文の
一、広く会議を興し万機公論に決すべし　です。

大切な事はすべて公正な意見によって決めましょうというのが皆にとって一番良く民主的だと思います！

地元で仕事をしていたら地域にもっと参画できるのではないかと思うので、地元の仕事をもっとしないといけないと思った。

会社の周りはしっかりできているが、住んでいる所は特に周りとの関わりも無い。滋賀の田舎でも、新興住宅地ではそういう事が起こっている。地域で仕事をするというのも大事だと思った。

●参画者
防災委員会は2年やったが、マンションの自治会の仕事は一切やっていない。住んでいるところと仕事は一切関係ないので、関わっていない。関わりたいが、既に自治会が出来上がっているので入りにくいというのもある。

自治会の伝統なのか、戦後民主主義の伝統なのかとわからない事もある。

●参画者
マンションに住んでいるが、自治会というのがあるのか無いのかわからない。

仕事で、マンションの工事に行く事が多いが、管理人さんが居ないところだと無法地帯。
自治会があるところだと工事がしやすい。

●参画者
自分も、住んでいるところと働くところが別々なので、もっと関わっていきたい。

朝出勤していると、おじいちゃんが枯れ葉などを掃除してくれている。「いいな」と思いながらも「」仕事に行かないとと思って何も関われていないので、今度お茶の差し入れをしたいと思う。

地元だと、公民館の合宿イベントや祭を通して、その他の町の子供達との関わりがあったり、おばあちゃんとの関わりがあった。

大きなマンションが建つ時、自治会の人がマンションに反対していて、結局負けてマンションは建ったが、そういう活動があると良いのかなと思った。

●参画者
東京に居たときはマンションだったので、管理組合があった。管理組合で役員も決まっていたので、あまり関わりがなかった。

熊野で一軒家を借りると、自治会に有無を言わさず所属させられる。回覧板も頻繁に回って来るのでご近所付き合いも出来てくる。自治会の寄り合いもあり、餅まきなどのイベントの時などには、餅づくり班長ができたり、何かの折々には集まってくる。

地域性が強いところがある。決め事については、役員さんが居るので、寄り合いの時に、意見を吸い上げる。「こうしようと思っています」と役員さんが提案して、反対意見があればみんなで出す。反対意見はどんどん出てくるが、最終的にはみんな納得して決まる。

●参画者
自分の住んでいるところでは東京なので、自治会があるのかどうかがわからないが、震災以降、宮城県女川町でファッションショーを開催してきた。地域ならではの文化があったが、津波で土地がなくなったので人が少なくなって、この町をどうしていきたいのか？という町民会議を行った。

そこで決まったのは、60代以降の人は口を出すな。50代以上の人はしっかり聴くけれどそれに対して口を出さず手を貸せという事。

当事者として、町に参画している感覚があるので、毎週末イベントがある。子供すら当事者意識がある。

自分は、今は東京に住んでおり、部外者ではあるので、女川町に関わり始めた時に、コミュニケーションを積極的にとった。街の人間になったかのように、通って通って通ってコミュニケーションをとった。

自分が町の当事者であるという認識が無いと、この問題は難しいなと思う。

●参画者
上京区の消防団に入っているが、訓練としては、あまり意味が無いように感じる。ただ、意味のない事をやる事に意味があるのかなと思う。この町に住んで、あそこの人の子供だと思ってくれるのが良いかなと思ってやっている。

小学校の挨拶当番があって、30分だけ声をかけるという事もやっている。

自分の所では、あまり意見が出ないので、根回しして先に意見を固めて、回覧板を回して反対意見があれば受け付けるみたいな感じでやりそうだと話を聞いていて思った。

脱退する人が増えるというは、仕方ない事なのかなと思う。残っている人でやるしかないのではと思う。

●座間延明さん
子供達の事もあって、自治会があって、子供会があるが、「自治会に入っていないのなら子供会にも入らないで」と言う人も出てくる。集団登校にも行かないというような事も出てくる。

親が「役がめんどくさいからやらない」というのも仕方ないとは思うが、そこまで考えているかを聞いている。子供は集団登校も参加したら良いと思うが、それを良く思わない人も居るのでややこしい。

老人会、子供会、青少年育成会があり、その都度委員会が立ち上がる。その委員が集まらないからやらないというのもある。

●おやじ
うちの場合は、自治会はかなりある。集落では、役職を、やりたくない人と、やらせてはいけない人にはつけない。

家の順番でだいたい声はかかるが、「どうか？」と言われて、「今年はやらんわ」となったら、「そうかそうか」と次の家に聞いて無理ならまた次に移っていく。無理にはさせない。

神社の掃除に関しても、「一人ではできないから飛ばそうか」とか、「今年は三人でやろうか」としたり、順番制などではない。やりたくない人は、やらないまま自治会に居る。

ただ、他の人にやってもらうので、みんなで協力しましょうねとなっている。役員をどうしてもやりたくない人もいるだろうし、やりたくてもでいない人もいる。一回飛ばしたりしても良いのではないか。

仕事メインで生きている人は、土地との関わりがなくても生きていける。関わった方が得をするという体験があれば良いのではないかと思う。

震災があったとき、無関係では居れなくなった。もしそのような事があったときに、どうするかという事を予め決めておく。「火事になったときに家潰してよいか？」と決めておいたり等、ちゃんと話し合いをしておかなければ不利益を被るとかあればよいのではないかと思う。

あと、田舎でよいのは、祭りがあるところ。あるマンションでは、自治会で神社を作ったところもある。お社をみんなで守っていって、お祭りをみんなでやるという事をしているところもある。お祭りだと子供も大人も関わる。

昔、入れ合い地というのがあった。個人でも、自治体の所有でもなく、村人全員が使える地面。売買もできない。全員がハンコを押さない限り、売る事ができない土地。使わないまでも、草刈りなどもしなければならない。それをどう使うか。入れ合い地を買って、畑をみんなで管理していくのはどうか？それをやると、関係ない人も、自分の地面でもあるので、関わるようになるのではないかと思う。

とりあえず、回覧板をやたら回すというのも良いかもしれない。板挟みに挟んで、丸をつけないと次に行かないというのは、地味だけど良いかもしれない。

過去に、都会に共同体をどうやって作るのかというのを議論した事がある。もう一回そういう事をやってもいいかもしれない。ありとあらゆるところに、いろんな共同体を作っていきたい。そういう議論ができればと思う。

次回は本田さん。白山さんが次回来れれば白山さん発表。安達さんも。ある程度問題が出たら、ピックアップして、しっかり議論していければと思う。例えば、税金の話も。

国の税金の話だと訳がわからなくなるので、自治会に置き換えて話を進めても良いと思う。毎月1,000円ではなくて、租庸調ではどうかというのは面白いかもしれない。お金でもいいし、肉体労働でもいいし、モノでもいいし。

関わり方に多様性が出てくるので、いろんな選択肢があれば良い。やってくれなかったら100円ではなくて、やってくれたら会費免除のような。ポジティブでいい感じがする。